

2020年9月10日

報道関係者各位

特別展「先住民の宝」

2020年10月1日(木)～12月15日(火)

新型コロナウイルスの影響により、開幕を延期しておりました、特別展「先住民の宝」の会期・関連イベントが決まりましたので改めてご案内いたします。

国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園 10-1)では、特別展「先住民の宝」を、2020年10月1日(木)から12月15日(火)まで開催します。

世界には、現在、70カ国以上の国々に、約3億7,000万人の先住民が暮らし、その民族の数は少なくとも5,000と言われていています。西欧列強の植民地化等により、先住民は苦難の歴史を歩んできましたが、現在においてもなお、圧政や差別に苦しむ先住民がいます。

本特別展では、国立民族学博物館に所属する研究者の最新の研究成果を元に、9つの国や地域に暮らす先住民をとりあげ、先住民の歴史や現在の暮らし、彼らが抱える問題や国家の課題など、先住民をとりまく状況を紹介します。

本特別展で紹介する先住民の「宝」とは、金銀財宝のことではありません。それは、彼らが大切にしている家族や親族、気の合う仲間かもしれませんし、海や森などの自然環境や生活用具の場合もあるでしょう。祭りや儀礼、伝統芸能、あるいは、彼らの心の中にある民族の誇りや、この世には存在しない精霊や祖先かもしれません。いずれにしても、彼らの日々の生活にあたたかな光を与えるもの、それが彼らの宝なのです。

逆境にありながらも日々を力強く生きてきた先住民にとって、宝は心の拠り所であり、民族としての誇りです。そして何よりも、宝は、彼らにとって、希望そのものなのです。本特別展をとおして、先住民の歴史や現状だけでなく、民族の誇りや継承されてきた文化の魅力、そして彼らが抱く未来への希望を感じ取っていただければ幸いです。



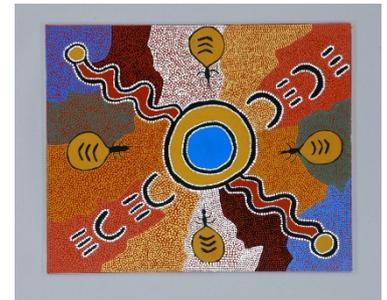
展示の見どころ

- 先住民の多様性を感じられる展示
- 国立民族学博物館の研究者がフィールドとする9地域の先住民を紹介
- 「ゴールデンカムイ」(『週刊ヤングジャンプ』(集英社)連載中)の原画展示

資料点数 約740点

展示内容

1. アボリジニ (オーストラリア)
2. オラン・アスリ (マレーシア)
3. タオ (台湾)
4. アーディバーシー (ネパール)
5. マヤ (グアテマラ)
6. サン、ソマリ (アフリカ)
7. 北西海岸先住民 (カナダ)
8. サーミ (北欧)
9. アイヌ (日本)



アクリル点描画 Janet Herbert 作
(オーストラリア アボリジニ)



仮面 (マレーシア オラン・アスリ)



神像 (ネパール ネワール)



木彫人形 (カナダ 北西海岸先住民)

関連イベント

※各イベントの申込み方法や詳細につきましては、みんぱくホームページをご確認ください。

みんぱく映画会

「斧は忘れても、木は覚えている」

会場 国立民族学博物館 講堂
日時 10月10日(土) 13:30～16:30 (13:00 開場)
解説 盛田茂(東洋大学 アジア文化研究所 客員研究員)
司会・解説 信田敏宏(国立民族学博物館 教授)
定員 160名
参加方法 要事前申込／参加無料／要展示観覧券
内容 マレーシアの先住民オラン・アスリの現状や 1969年に起きた「人種暴動」の真実について、関係者のインタビューを交えながら紹介するドキュメンタリー映画です。



森林伐採によって完全に破壊された森の果樹園
 (提供：ラウ・ケクファット、2017年)

みんぱくゼミナール

第503回「アイヌ文学の世界——韓・日との比較」

会場 国立民族学博物館 講堂
日時 10月17日(土) 13:30～15:00 (13:00 開場)
講師 北原モコツウナン
 (北海道大学アイヌ・先住民研究センター 准教授)
 齋藤玲子(国立民族学博物館 准教授)
定員 160名
参加方法 要事前申込／参加無料
内容 アイヌ民族が伝承してきた物語は、登場するキャラクターや語り方などによっていくつかのジャンルに分けられてきました。朝鮮半島や日本の物語と比較し、共通点や違いについて考えます。



「世界のはじまりの話」
 絵：小笠原小夜

ワークショップ「ペーパークラフトでトーテムポールをつくろう」

会場 国立民族学博物館 くつろぎスペース
日時 10月31日(土)、11月1日(日) 13:00～15:30 (受付開始 12:30)
講師 田主誠(版画・造形作家)
 岸上伸啓(人間文化研究機構理事・国立民族学博物館 教授(併任))
定員 各回22名
対象 小学生以上(小学3年生以下は保護者同伴)
参加方法 要事前申込(先着順)／参加費 300円
 ※受付開始は10月初旬(予定)
内容 カナダの北西海岸先住民の歴史と文化についての解説をきいた後、本館前庭で実物のトーテムポールを観察し、各自が紙を用いてオリジナルのトーテムポールを制作します。

ワークショップ「アイヌの矢作りと模擬狩猟体験」

会場	国立民族学博物館 特別展示館地下休憩所
日時	11月7日(土) 13:30~15:50 (受付開始 13:00) 11月8日(日) 10:20~12:40 (受付開始 10:00)
講師	岡田恵介、山道陽輪(公益財団法人アイヌ民族文化財団 民族共生象徴空間運営本部 職員)
司会進行	齋藤玲子(国立民族学博物館 准教授)
定員	各回 22名
対象	小学4年生以上(小学生は保護者同伴)
参加方法	要事前申込(申込者多数の場合は抽選)／参加費 300円／要特別展示観覧券 ※受付開始は10月中旬(予定)
内容	アイヌの狩猟文化についての講義を聞いた後、ひとりひとりが矢を制作し、動物に見立てた的に向けて矢を射る体験をします。また、講師による仕掛け弓狩猟の実演をとおしてアイヌの知識や技術について学びます。

友の会講演会「トーテムポール——カナダ北西海岸先住民の宝」

会場	国立民族学博物館 講堂
日時	10月3日(土) 13:30~14:40 (13:00開場)
講師	岸上伸啓(人間文化研究機構理事・国立民族学博物館 教授(併任))
定員	160名(先着順)
参加方法	友の会会員：無料(予約不要、当日会員証提示) 一般：500円(友の会ホームページ内受付フォーム https://www.senri-f.or.jp/505tomo/ より要予約)

お問い合わせ	国立民族学博物館友の会(千里文化財団)06-6877-8893
内容	北アメリカ北西海岸地域にある先住民の村々には、動物や人間などの姿を彫りこんだ巨大な木柱が、多数立てられています。それらはトーテムポールとよばれ、現在、ハイダやクワクワカワクウなど各民族の宝であり、象徴です。トーテムポールとは何か、その歴史的変遷、現在の制作状況とそれに関連するポトラッチ儀礼について解説します。あわせて、みんぱく前庭に立っている新旧2本のトーテムポールの制作について紹介します。

みんなくウィークエンド・サロン——研究者と話そう
研究者が展示場に登場し、展示や研究についてお話しします。

「カナダ北西海岸先住民文化の歴史と現状」

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)
日時 10月4日(日) 14:30~15:15 (14:00 開場)
講師 岸上伸啓(人間文化研究機構理事・国立民族学博物館 教授(併任))
定員 42名(先着順)
参加方法 申込不要／要展示観覧券
内容 ヨーロッパ人が到来する以前からカナダの太平洋沿岸地域に住んでいる人びとは、北西海岸先住民と呼ばれています。昔からポトラッチ儀礼や、木製のトーテムポールや仮面などを作ることで有名です。彼らの文化の歴史と現状をスライド画像を用いて紹介します。



ハイダのトーテムポールの建立

「ネパールの先住民運動」

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)
日時 10月11日(日) 14:30~15:00 (14:00 開場)
講師 南真木人(国立民族学博物館 准教授)
定員 42名(先着順)
参加方法 申込不要／要展示観覧券
内容 ネパールの先住民(アーディバシー)とは誰のことで、何を求めてどのような運動をしているのでしょうか。1990年代に始まった運動の経緯と過程をふまつつ、2008年の王制廃止後、連邦民主共和国となってからの先住民の動向を考えます。



ネパールの民族政党
「人民解放党」の行進

「オラン・アスリと精霊」

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)
日時 10月18日(日) 14:30~15:00 (14:00 開場)
講師 信田敏宏(国立民族学博物館 教授)
定員 42名(先着順)
参加方法 申込不要／要展示観覧券
内容 特別展「先住民の宝」では、マレーシアの先住民オラン・アスリの彫像や仮面が展示されています。これらの彫像や仮面には、それぞれ精霊の名前がついています。オラン・アスリと精霊について詳しく解説します。



つむじ風の精霊

「旅と映画とマヤ民族」

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)
日時 10月25日(日) 14:30~15:00 (14:00開場)
講師 鈴木紀(国立民族学博物館 教授)
定員 42名(先着順)
参加方法 申込不要/要展示観覧券
内容 特別展「先住民の宝」では、グアテマラのマヤ民族を取り上げています。マヤ民族とはどのような人びとなのか、「旅」と「映画」を手掛かりに考えます。私が1983年と2019年に行ったグアテマラへの旅を比較し、その間に何が生じたのかを「映画」から読み取ります。



グアテマラのサン・フランシスコ・エル・アルトの市場に客を運ぶ路線バス

「100年前のアイヌの暮らしと現代の文化」

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)
日時 11月1日(日) 14:30~15:00 (14:00開場)
講師 齋藤玲子(国立民族学博物館 准教授)
定員 42名(先着順)
参加方法 申込不要/要展示観覧券
内容 特別展で原画を展示する漫画『ゴールデンカムイ』は、北海道と樺太(サハリン)を舞台にした冒険活劇で、そこに描かれるアイヌの暮らしはおよそ100年前のものです。明治から現代に至るまでの歴史と、生活が変化するなかでも受け継がれてきた文化について紹介します。



カムイノミで使用される儀礼具

「サーミの工芸品」

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)
日時 11月8日(日) 14:30~15:15 (14:00開場)
講師 庄司博史(国立民族学博物館 名誉教授)
定員 42名(先着順)
参加方法 申込不要/要展示観覧券
内容 サーミ人にとって、サーミ工芸は今日も生活をささえる、伝統文化をいかした重要な生業です。生活の近代化によりかつての工芸品の多くは便利は製品におきかわり、サーミの工芸品をまねた安価な製品も出回るなかで、彼らの工芸品をまもる努力を紹介します。



観光・実用工芸品とともに美工芸品として活路を探るサーミナイフ

「アフリカの先住民について」

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)
日時 11月29日(日) 14:30~15:00 (14:00開場)
講師 池谷和信(国立民族学博物館 教授)
定員 42名(先着順)
参加方法 申込不要/要展示観覧券
内容 アフリカ大陸には、多様な民族集団が暮らしています。その領域は、国境と一致することはあまりありません。果たして先住民は、アフリカに存在するのでしょうか。ここでは、アフリカの先史時代から現在までの民族の歴史をふまえて、誰がアフリカの先住民であるのかという問いを設定して考えます。具体的には、カラハリ砂漠のサン人やソマリランドのソマリ人の事例を紹介します。



都市に暮らすソマリの人びと

「台湾原住民運動40年——「高山青」から移行期正義まで」

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)
日時 12月6日(日) 14:30~15:15 (14:00開場)
講師 野林厚志(国立民族学博物館 教授)
定員 42名(先着順)
参加方法 申込不要/要展示観覧券
内容 台湾には原住民族とよばれるオーストロネシア系先住民がくらしてきました。原住民族は1980年代から先住民族としての権利と尊厳を主張し、現在では台湾の憲法において先住民族としての存在が認められています。その40年にわたる誇りをかけた営みをお話します。



異なる民族の人たちが集う機織りのワークショップ
 2019年11月野林撮影
 於苗栗県象鼻村野桐工房

開催概要

展覧会名 特別展「先住民の宝」
会場 国立民族学博物館 特別展示館
会期 2020年10月1日(木)～12月15日(火)
開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日 水曜日
観覧料 一般 880円(600円) 大学生 450円(250円) 高校生以下 無料

※本館展示もご覧いただけます。

* ()内は、20名以上の団体、大学等(短大・大学・大学院・専修学校の専門課程)の授業でご利用の方、3ヵ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書等)。

* 障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに、無料で観覧できます。

主催 国立民族学博物館
協力 UMAK ノルウェー・アーケティック大学博物館・芸術学院
公益財団法人アイヌ民族文化財団
国立アイヌ民族博物館
株式会社札幌丸井三越
集英社「週刊ヤングジャンプ」
千里文化財団
総合地球環境学研究所
北海道大学アイヌ・先住民研究センター
北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究ユニット(UBRJ)

●ご来館のみなさまへ

新型コロナウイルス感染症の予防のため会期・イベント等を変更・中止する場合があります。事前にホームページでご確認ください。また、オンライン予約でのご来館にご協力ください。

実行委員長 信田敏宏(国立民族学博物館 教授)

専門は社会人類学、東南アジア研究。主な著書に『周縁を生きる人びと——オラン・アスリの開発とイスラーム化』(京都大学学術出版会 2004 年)、『ドリアン王国探訪記——マレーシア先住民の生きる世界』(臨川書店 2013 年)、『「ホーホー」の詩ができるまで——ダウン症児、こころ育ての 10 年』(出窓社 2015 年)、『「ホーホー」の詩、それから——知の育て方』(出窓社 2018 年)、『家族の人類学——マレーシア先住民の親族研究から助け合いの人類史へ』(臨川書店 2019 年)、共編著に『グローバル支援の人類学——変貌する NGO・市民活動の現場から』(昭和堂 2017 年)、『東南アジア文化事典』(丸善出版 2019 年)などがある。



実行委員

池谷和信	国立民族学博物館 教授
岸上伸啓	人間文化研究機構理事・国立民族学博物館 教授(併任)
齋藤玲子	国立民族学博物館 准教授
鈴木紀	国立民族学博物館 教授
野林厚志	国立民族学博物館 教授
南真木人	国立民族学博物館 准教授
川瀬慈	国立民族学博物館 准教授
庄司博史	国立民族学博物館 名誉教授
久保正敏	国立民族学博物館 名誉教授

館外実行委員

本谷裕子	慶應義塾大学 教授
立川陽仁	三重大学 教授
北原次郎太(モコットウナシ)	北海道大学 准教授
田村将人	国立アイヌ民族博物館 展示企画室長
阿部健一	総合地球環境学研究所 教授

館外協力者

ロッセツラ・ラガツツイ トロムソ大学

特別展「先住民の宝」 広報用画像リスト



①

②

③

④

【1】特別展チラシ



【2】彫像(マレーシア オラン・アスリ)



【3】仮面(マレーシア オラン・アスリ)



【4】アクリル点描画 Janet Herbert 作
(オーストラリア アボリジニ)



【5】舟(台湾 タオ)

特別展「先住民の宝」 広報用画像リスト



【6】仮面(ネパール ネワール)



【7】女性用衣服(グアテマラ マヤ)



【8】化粧品入れ(アフリカ サン)



【9】銅板紋章 Gerry Marks 作(カナダ ハイダ)



【10】ナイフ(北政 サミー)



【11】山刀(日本 アイヌ)

これらの広報画像はデータにて提供可能です。

ご入り用の画像があれば、総務課広報係まで次頁申込用紙にてお申し込みください。

資料名につきましては、展示場での表記と異なる場合がございます。

特別展「先住民の宝」広報用画像利用申込用紙

【ご希望の画像番号】

--

【貴社・貴機関について】

貴社・貴機関名	媒体名
ご担当者名	所属部署
所在地 〒	
電話番号	E-mail
ご掲載・放映の予定日	年 月 日

【プレゼント用招待券】（ご希望の場合はどちらかにチェックを入れてください）

 3組6枚 5組10枚

※以前の会期（3月19日～6月2日）のチケットをお持ちの方は、そちらもご使用可能です。新しい会期（10月1日～12月15日）のチケットとの交換をご希望の方はその旨お知らせください。

※チケット発送先が上記所在地と異なる場合は、下記にご記入ください。

発送先 〒

【申込先】

■ メール koho@minpaku.ac.jp または ■ FAX 06-6875-0401

【広報に関するお願い】

■ 写真使用に関するお願い、注意事項

・クレジットには次のとおり記載してください。

【2】～【5】、【7】～【11】国立民族学博物館蔵

【6】個人蔵

・写真（画像）のトリミングや文字乗せはご遠慮ください。

・作品写真の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。

■ 本館の基本情報等の確認のため、メールまたはFAXにて、掲載記事、番組内容の原稿等を下記連絡先までお送り願います。

■ お手数ですが、掲載紙・誌または録画媒体を2部お送りください。